

平成 22 年度事業報告書

< 一 般 会 計 >

第 1 乗用馬等の生産育成振興事業

1 乗用馬の生産育成指導事業

(1) 生産育成の指導・促進

乗用馬の生産育成を指導・促進するために、本会に指導技術者及び事務員各 1 名を置いた。

(2) 乗用馬生産育成のための促進・指導

乗用馬の生産育成を促進するため、次の事業を実施した。

- ① 北海道地区及び岩手県遠野地区の乗用馬生産農家の組織強化と乗用馬生産基盤を強化するため、乗用馬の計画的生産の促進、現地に適した生産体制について検討会を行った。(釧路市 11 月 2 日、遠野市 11 月 7 日)

また、釧路市及び遠野市での乗用馬市場の開催に際しては、当協会の職員が調教等に協力した他、せり名簿の作成について助言、協力するとともに作成経費を助成した。更に、両市場開催の告知ポスターを作成し、広報に努めた。

- ② 遠野で生産された乗用雌馬ロレンジア号（ウエス×KWP N）を繁殖用として買い上げ、当地で貸し付けるとともに、J R A から贈与を受けた 3 頭を繁殖用として貸し付けた。また、家畜改良センターの業務方法書の改正（貸付馬の有料化及び貸付期間の延長）を受けて、それまで借り受け、配置（転貸）していた種雄馬等については、契約をやり直した。

2 日本在来馬の保存活用推進事業

(1) 連絡調整の事務

日本在来馬の保存活用に係る各馬種団体の保存活動の円滑な運営と活性化を図るため、現地連絡会議へ出席した。(北海道和種:4 月 21 日、木曾馬:5 月 21、22 日)

また、助成額が減少する中での在来馬の保存活用の今後のあり方を検討するため、1 月 21 日に日本在来馬保存活用全国会議を開催した。

(2) 日本在来馬の保存登録

在来馬の保存のため、北海道和種（血統登録：171 頭、繁殖登録：39 頭）、木曾馬（血統登録：8 頭、繁殖登録：4 頭）、野間馬（血統登録：4 頭、繁殖登録：4 頭）及び宮古馬（繁殖登録：1 頭）について登録を行った。

与那国馬については、2 月に調査を行い、前回までに M C (マイクロチップ) を埋め込んだ個体の確認と新たに 59 頭について M C の埋め込みと D N A の検査を行った。今後、このデータを基に血統図を作成するとともに馬管理台帳を作成し、個体識別が可能な個体について登録を行うための記録を開始することとしている。また、

与那国馬の体型標準の原案を作成した。

3 馬事振興検討会の開催

登録申込馬の白毛の認定、毛色及び特徴記載要領における毛色の新規設定について馬事振興検討会を開催して検討し（10月4日）、検討結果を踏まえて記載要領の改訂を12月1日付けで行った。

第2 農用馬等の生産振興事業

1 農用種雄馬の整備事業

農用馬の資質の向上と増産を推進するため、前年度に引続き家畜改良センター有種雄馬8頭（ペルシュロン4頭、ブルトン4頭）を借り受け、馬産地に配置（転貸）した。また、家畜改良センターの業務方法書の改正（貸付馬の有料化及び貸付期間の延長）を受けて、それまで借り受け、配置（転貸）していた種雄馬については、契約をやり直した。

また、本会有種雄馬2頭（ばんえい馬）を購入し、配置した。

(1) 家畜改良センター有種雄馬の借受と配置

年齢 2歳7頭、12歳1頭

品種別配置先頭数

(単位：頭)

区分	石狩	釧路	十勝	岩手	宮崎	熊本	計
ブルトン	1			1	1	1	4
ペルシュロン		1	1	1		1	4
計	1	1	1	2	1	2	8

(2) 本会有種雄馬の購買と配置

品種別配置先頭数

(単位：頭)

区分	上川	根室	計
ばんえい馬	ツジノコウフク（7歳） （日本輓系種）	ホクトキング（9歳） （半血種（輓系））	2

2 種馬の登録事業

北海道においては輓系馬、乗系馬及び小格馬、岩手県においては輓系馬及び乗系馬、青森、島根、長崎、熊本、宮崎の各県においては輓系馬を主体に登録を行った。（(2)の表参照）

(1) 登録事務の推進

種馬登録事務の適正かつ円滑な実施を図るため、本部及び北海道事務所に技術者、事務員を配置して登録事務に当たったほか、各支部及び関係団体の協力を得て登録

事務を行った。

① 登録審査委員の委嘱等

登録審査委員については、人事異動等必要に応じ、本会役職員、学識経験者、関係団体の役職員のうちから適任者を委嘱（又は任命）した。（新規7名、H22年度末現在57名）

② 登録審査委員研究会の開催

登録審査を厳正に実施するため、11月17日に家畜改良センター十勝牧場で登録実務研究会を開催し、審査技術の向上を図った。（登録審査委員10名）

（2）登録審査の実施

登録申込みのあった馬については、実馬及び関係書類を審査して登録を行った。

平成22年度種馬登録・個体識別等頭数

（単位：頭、%）

区分	農用馬等					在来馬	合計		
	輓系	乗系	小計	小格	計		頭数	前年比	
血統登録	北海道	1,493	147	1,640	313	1,953	—	1,953	88.1
	都府県	217	79	296	0	296	—	296	113.0
	計	1,710	226	1,936	313	2,249	183	2,432	90.7
繁殖登録	北海道	266	40	306	98	404	—	404	89.6
	都府県	44	27	71	2	73	—	73	92.4
	計	310	67	377	100	477	48	525	90.0
計	2,020	293	2,313	413	2,726	231	2,957	90.6	
個体識別証明 内国産馬証明	北海道	—	5	5	21	26	—	26	104.0
	都府県	—	7	7	0	7	—	7	100.0
	計	—	12	12	21	33	—	33	103.1
合計	2,020	305	2,325	434	2,759	231	2,990	90.7	

（注）前年度比には、在来馬の頭数は含まない。

（3）登録証明書の発行等

登録した馬については、種馬登録証明書を交付したほか、種馬登録情報をインターネットで開示した。（（2）の表参照）

3 馬生産推進事業

（1）農用種雄馬の適正配置

① 種雄馬配置協議会の開催

家畜改良センターから借受けた種雄馬の適正配置を図るため、十勝牧場に配置希望団体（6団体）の参集を得て配置協議会を開催し、種雄馬7頭を適正に配置した。（8月6日）

② 種雄馬の管理指導

ア 本会配置種雄馬の管理を適正に行うため、本会の職員等が巡回し、管理状況

の把握と管理指導を行った。

イ 馬生産農家の交配種雄馬の選定、配置転換及び登録審査の参考に資するため、本会有貸付馬、家畜改良センター有馬、民間有馬等の種雄馬（種畜検査合格馬）を網羅した種雄馬名簿を作成し、関係者に配布した。

（２）農用馬の生産振興

① 農用馬生産振興推進協議会の開催

地域の実態に即した農用馬の生産振興策を検討するため、九州ブロックは11月26日に熊本市で、北海道ブロックは12月2日、3月28日に帯広市で、東北ブロックは、12月15日に盛岡市で開催した。

② 優良農用馬生産者の表彰

農用馬生産者の生産意欲を増進するため、ばんえい競馬の生産の指標となる基幹2競走である「ばんえいオークス競走」と「イレネー記念競走」に出走した馬の生産者表彰式を3月27日に帯広市で開催した。

なお、表彰に当たっては、（財）馬事畜産会館の後援を受けた。

③ 農用馬の生産技術指導

農用馬の生産を促進するため、技術者及び飼養者を対象とした技術講習会等を実施した上川生産農業協同組合連合会ほか8団体に指導奨励金を交付した。

④ 診療技術研修会の開催

馬の診療技術者の養成及び生産技術の向上を図るため、1月31日に地方競馬教養センターで診療技術研修会を開催した。

（３）優良農用馬資源確保のための緊急特別対策

ばんえい競馬の競走馬資源を確保するため、ばんえい競馬主催者である帯広市が競馬番組で定める2歳馬競走の優勝馬等（対象競走数121競走）の生産者に生産者賞を交付する事業に対して助成を行った。

第3 家畜改良データバンクへのデータの提供

（社）家畜改良事業団が行っている家畜改良体制運営事業を活用して、随時、種馬登録データの入力を行い、血統登録データを公開してその活用を図った。

第4 農家定点調査の実施

（社）中央畜産会の委託により、馬の改良増殖及び飼養管理の状況を把握する調査を実施した。

第5 褒賞の実施

農用馬等の生産振興を図るため、ばんえい競走の勝馬（4R）、種馬共進会等（3件）、全国スポーツ流鏑馬及び全国装蹄競技大会優勝者に対して褒賞を行ったほか、根釧乗用馬生産者馬術大会等に対して後援（6件）を行った。

第6 その他庶務的事項

1 広報

馬事協会便り第5号と第6号を10月と3月に発行し、ホームページに掲載するとともに、改正規程、乗用馬市場開催のポスターや出場馬名簿、研修会開催要領等をホームページに掲載した。

2 公益社団法人に向けた取り組み

平成23年6月の公益社団法人認定申請に向けて、作業を行った。

3 会員の状況（平成23年3月31日現在）

団体会員 72団体（平成22年度中の入退会なし）

個人会員 36名（平成22年度中の入会1名、退会3名）

4 会議等の開催

当協会の事業運営について審議・協議するため、総会、理事会を開催した。

（1）通常総会 6月4日 馬事畜産会館2階会議室

議案第1号 平成21年度事業報告書、収支決算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録並びに監査報告の承認に関する件

議案第2号 平成22年度事業計画（案）及び収支予算（案）の承認に関する件

議案第3号 平成22年度の会費賦課額の決定並びに徴収方法に関する件

議案第4号 常勤役員の報酬に関する件

議案第5号 理事及び監事の選任に関する件

なお、理事及び監事の新たな選任は以下のとおり。

理事

小谷敏彦（西勝海の後任）

高橋勝義（松下隆之の後任）

田中勝已（鈴木重格の後任）

監事

石田生男（星野大清の後任）

（2）理事会

① 第1回理事会 6月4日 馬事畜産会館2階会議室

第1号議案 第63回通常総会提出事項に関する件

議案第1号 平成21年度事業報告、収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録並びに監査報告の承認に関する件

議案第2号 平成22年度事業計画（案）及び収支予算（案）の承認に関する件

議案第3号 平成22年度会費賦課額の決定並びに徴収方法に関する件

議案第4号 常勤役員の報酬に関する件

- 議案第5号 理事及び監事の選任に関する件
 第2号議案 諸規程の改正の承認に関する件
- ② 第2回理事会 8月24日 馬事畜産会館2階会議室
 第1号議案 社団法人日本馬事協会種雄馬管理規程の改正に関する件
 第2号議案 特別賦課金賦課等徴収規程の廃止と種雄馬配置料規程の制定に関する件
 第3号議案 乗用雌馬貸付規程の改正に関する件
- ③ 第3回理事会 9月14日 日本馬事協会会議室
 議案 社団法人日本馬事協会種馬登録規程の一部改正に関する件
- ④ 第4回理事会 10月26日 日本馬事協会会議室
 議案 参与の任命に関する件
- ⑤ 第5回理事会 12月13日 馬事畜産会館2階会議室
 第1号議案 新公益法人への移行に関する件
 第2号議案 社団法人日本馬事協会組織規程の一部改正に関する件
 第3号議案 社団法人日本馬事協会役員給与規程の一部改正に関する件
 第4号議案 社団法人日本馬事協会職員給与規程の一部改正に関する件
 第5号議案 新たな入会希望者の入会に関する件
- ⑥ 第6回理事会 3月14日 馬事畜産会館2階会議室
 第1号議案 平成23年度暫定予算(案)の承認に関する件
 第2号議案 公益社団法人日本馬事協会定款の制定に関する件
 第3号議案 公益社団法人日本馬事協会役員報酬及び退職慰労金支給規程の制定に関する件
 第4号議案 諸規程の停止条件付き改正に関する件
- (3) 監事監査 5月18日 日本馬事協会会議室
- (4) 検査の受検
 ① 農林水産省による業務及び財務状況等の立ち入り検査等
 2月17日 現物確認検査 2月24日 定期立入検査
 ② 地方競馬全国協会による畜産振興補助事業に関する監査
 11月4日、5日

5 役職員の異動

- (1) 平成22年4月1日
 総務部長 重田賢司(地方競馬全国協会からの派遣)
- (2) 平成22年10月1日
 嘱託採用 栗本共明
- (3) 平成22年10月31日
 常務理事辞任 安武正秀(11月から非常勤理事)
- (4) 平成22年11月1日

参与（事務局長取扱） 栗本共明（囑託）

（5）平成 23 年 1 月 1 日

専門役 山下大輔（主査）

主任 原田寛久（係員）

（6）平成 23 年 3 月 31 日

退職 佐藤 修（業務部長）

6 その他

4月に宮崎県で発生した口蹄疫の撲滅のために、当協会職員2名を現地に派遣した。
これに対し、9月7日付けで農林水産大臣から当協会へ感謝状が贈られた。

山下大輔 7日間

原田寛久 14日間

< 特別会計 >

第1 馬事普及啓蒙推進事業

馬事知識の普及、馬の利用促進及び農用馬の生産振興を図るため、次の事業を行った。

1 馬事普及啓蒙対策事業

(1) 馬事振興検討会の開催

(一般会計の第1の3に同じ。)

(2) 普及啓蒙

ホームページを逐次更新し、農用馬等に関する情報を提供した。

2 馬事普及のための特別対策事業

馬事知識の普及を図るため、①NPO法人とかち馬文化を支える会が帯広競馬場等で再現した「チャグチャグ馬コ」、②北海道鞍用馬振興対策協議会が名古屋競馬場で行った馬産振興イベント、③埼玉県浦和競馬組合が行った体験乗馬などの馬事普及教室の開催に対して助成を行った。

3 馬事思想普及用機材の貸付事業

馬事思想の普及を図るため、岐阜県地方競馬組合が行う笠松競馬祝日開催日の配布用にブックレットを提供したほか、14団体にパネルの貸し出しとブックレットの配布を行った。

4 馬事普及関係資料の収集分析機器の設置事業

血統登録情報の管理システムの保守を行いながら、種馬登録に係るデータベースを作成し、提供した。

5 優良農用馬の生産振興対策事業

農用馬の生産振興のために、①十勝農業協同組合連合会が行った分娩前のセレニール及びビタミンEの投与方法と血液性状・繁殖成績・子馬活力との関連性についての血液プロファイルテスト並びに免疫機能も付加した検証等、②釧路農業協同組合連合会が行った馬産後継者対策として良質馬の生産及び技術の向上を図るための道内地方視察研修会等、③上川馬事振興会青年部が行った優良多産馬の骨格の研修や相馬研究会等、④根室馬事振興協議会青年部会が行った馬の出産についての講習会等の開催にして助成を行った。

6 農用馬生産者が行う馬事知識の普及啓蒙事業

4年ごとに開催される北海道総合家畜共進会の一部門である馬共進会は、宮崎県での口蹄疫発生のため中止となり、翌年度に繰り越された。

7 優良農用馬生産者の表彰事業

一般会計で行う生産者表彰事業を補完した。(帯広市、3月27日)

8 その他

宮崎県の口蹄疫防除を支援するため、山下主査と原田係員を派遣した。

第2 日本在来馬種保存事業

日本在来馬種保存のため、次の事業を行った。

1 日本在来馬種の保存・利活用

日本在来馬の保存、利活用に必要な飼育管理費、保存活用研究費、施設等整備費等を全国8馬種の保存会へ助成した。

また、和種馬の体形標準を検討するため、北海道和種馬保存協会総代会に職員を派遣した。

2 絶滅が危惧される在来馬に対する対策

絶滅が危惧される3馬種（対州馬、宮古馬、与那国馬）について、馬種ごとに必要な施策（施設整備、繁殖技術指導、登録）を行った。

与那国馬にあっては、登録のための血統図を作成するための準備を行った。

第3 馬繁殖性向上対策事業（平成20～22年度）

凍結精液の活用等による馬の人工授精の普及を図るため、次の事業を行った。

1 精液濃縮技術の開発

馬の人工授精の普及率を高めるため、馬の凍結精液製造過程における精子活力を向上させる新しい精液濃縮技術の開発を行った。「馬精液濃縮方法の開発に係る報告書の作成」

2 擬牝台を用いた種雄馬の調教

遠野馬の里において、年間を通じて安定的に凍結精液の製造ができるように、種雄馬の擬牝台による採精の調教を行い、安定的に採精が出来るようになった。「擬牝台を用いた精液採取に係る報告書の作成」

3 擬牝台を用いた採精技術の研修会の開催

擬牝台を用いた精液採取技術の普及を図るため、遠野馬の里において、12月16～17日に研修会を開催した。（15名受講）「馬の人工授精の理論と実践を作成」

第4 アニマルウェルフェア飼養管理確立推進事業（平成21～23年度）

アニマルウェルフェアに対応した馬の飼養管理指針の策定のため、次の事業を行った。

1 事業推進委員会・専門部会の開催

事業の総合的な実施方針等の検討を行うとともに「アニマルウェルフェアの考え方に対応した馬の飼養管理指針」を策定するために、事業推進委員会及び専門委員会を開催した。（事業推進委員会：12月7日開催、第2回を3月17日に予定したが東日本大震災のため中止し、電話等で意見調整して管理指針の了解をとった。専門委員会：11月9日及び2月14日開催）

2 アニマルウェルフェア対応飼養管理指針の策定

（1）飼養管理方法に関する比較調査

「アニマルウェルフェアの考え方に対応した馬の飼養管理指針」の策定に資する

ため、飼養管理方法に関する現地調査（十勝地域：11月2～4日、11月7～8日、熊本県内：10月12～14日、11月15日～17日）を実施した。

(2) 飼養管理指針の策定

「アニマルウェルフェアの考え方に対応した馬の飼養管理指針」を策定した。

第5 馬能力向上推進事業（新規：平成22～24年度）

国内生産馬の能力を向上させるため、次の事業を行った。

1 馬能力向上推進委員会の開催等

学識経験者等からなる推進委員会及び専門委員会を開催し、馬事関連団体の連携システムの構築及び国内生産実態に即した馬能力評価方法作成のための検討を行った。

（事業推進委員会：7月6日開催、国内生産馬能力評価方法検討委員会：8月19日、10月5日開催、馬事関連団体連携委員会：8月3日、9月21日、3月7日開催）

2 情報一元化システムの整備（平成23年度に実施予定）

馬の個体情報の一元的な管理及び利用に向け、馬事関連団体が持つデータベースを各団体のホームページ上で一致させるためのシステム整備を行う予定である。

3 馬能力評価方法の調査検討

(1) 国内生産馬に求められるニーズ、収集可能データ等を把握するため、乗馬クラブ及び農用馬関係者等にアンケート調査を行った。(207件集計)「国内実態アンケート調査報告書の作成」

(2) 国外の情報収集のため文献収集を行うとともに、その翻訳を行った。海外における馬能力評価方法等の調査は、平成23年度に行うことになった。

(3) 馬能力評価方法プロトタイプの実成は平成23～24年度に実施する予定である。